

平成 30 年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価について (生涯学習分野抜粋)

【課題と今後の対応・方向】

1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

①多様な年齢層・対象に周知するための広報の工夫

参加者からの評価は高いが参加人数が少ない事業がある。周知が難しいという現実をふまえ、広報を工夫して、多様な年齢層・対象への周知のため、区報・チラシやSNS等をさらに効果的に活用することが期待される。

②障害者や外国人等、学びにハンディのある人への支援

基本的な方向として掲げた「あらゆる立場の人たちに対応した学習支援の充実」を実現するため、聴覚障害者、視覚障害者、外国人居住者などへの支援について、今後さらに可能な限りの対応が必要である。

③施設予約におけるデジタルデバイドの解消・配慮

予約システムのIT化により、効率化が図れる反面でIT弱者の方々の不利益が生じる可能性があるため、細心の注意を払う必要がある。

④効果的な相談の実施と参加促進

生涯学習相談窓口が開設され、1年間実施されたが、相談内容の要望や期待が出始めてきた。今後、その要望や期待に応え、効果的な相談を行い、生涯学習への参加を促すためには、区が実施する全ての課の事業、講座の情報を相談窓口を集約するとともに、特にIT弱者の方々には、紙媒体広報物（チラシやパンフレット）で手渡せる仕組みもつくるべきである。

⑤行政以外の団体が主催する事業の集約・発信

区の行政情報にかぎらず、区内の大学で開催される講座情報、民間企業のホールの施設利用についても情報を集約して区民に提供することが期待される。行政各課や民間機関との連携により、IT利用、資産運用、防犯・防災など、現代社会で区民が安全に生きるための講座の開設も検討されたい。

2 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実

①文京バックアップズの活用

基本的な方向としての「人材育成・活用の推進」の一環としてオープンしたWebサイト、文京バックアップズの可能性に期待する。

②ミドル・シニアや若年層等、多様な区民の力を活かすための支援

今後の対応として、多様な区民の力を活かすため、インタープリターのステップアップ講座、区民プロデュース講座の質的充実、各種養成講座の修了者の活躍を支援するための工夫、高齢福祉課とアカデミー推進課の連携による定年前の働き盛りの年齢層（ミドル・シニア）への人材養成講座の提供、若年層に対するアプローチなど、多岐にわたる努力に期待したい。

③社会教育関係団体の活動を効果的に機能させる仕組みづくり

社会教育関係団体の制度を有効に機能させるため、各種講座修了後には自主グループ化と社会教育関係団体としての登録を促すとともに、平成31年度の更新時期を機に、既存団体が毎年の活動報告を提出するような仕組みをつくることも検討すべきである。今後も、学習成果の発表やボランティアとしての活躍等の場を充実させることが求められる。

3 学びの継続を通じたまちづくり

①地域アカデミーを活用した循環的に発展するための仕組みづくり

地域アカデミーは、各講座の受講後などに受講者が主体的に結成するサークルや社会教育関係団体の活動を行う場所として、今後も本計画の基本的な方向に掲げている「学びを通じた交流・仲間づくりの推進」及び「地域で支える学習環境の充実」の場としての維持、発展に努められたい。区民の学習活動とその成果を活かしたまちづくりの活動が、地域アカデミーを活用して循環的に発展していくための仕組みをつくっていくことが期待される。